

## ジュズカケハゼ (ハゼ科)



**学名：** *Gymnogobius laevis*

**別名：**ゴロ, トラゴロ **大きさ：**全長 5 cm

**特徴：**体は細長く、体色は明褐色で、体側に暗色横帯がみられることが多い。産卵期のメスには体側に明るい濃黄色の横帯が表れるとともに、腹びれや背びれ、臀びれ、体の前方約4分の3あたりまでが黒味を帯びる(写真)。オスの体色もメス同様に变化するが、メスほどではない。類似種にビリンゴがいるが、体色、体形ともにとってもよく似ている。本種との区別は眼の周辺にある感覚管の有無で行うのが無難だが、それには実体顕微鏡を用いた観察が必要。

**国内の分布：**北海道から福井県、長野県、東京都までの、主に河川汽水域や淡水域

**県内の分布：**霞ヶ浦水系、涸沼

**県内での生態：**産卵期は春。産卵行動は、まずオスが口で泥底に穴を掘って産卵床を作り、同時にメスとペアになる。メスは産卵床が完成するまでオスが穴を掘っている傍にいて、近づくメスに対して鰭を広げるなどの威嚇行動をとる。掘る穴の直径は約1 cm。メスの産卵後、オスはそのまま卵の

世話のため産卵床に留まる。卵数はメスの大きさにもよるが、体長約50 mmで300～500個ほど。ふ化仔魚の大きさは全長6.7 mm。1980年代までの霞ヶ浦と北浦の湖岸近くでは6～7月に稚魚や若魚が表中層に群泳していた。しかし少なくとも2005年以降は群泳どころか成魚さえもあまりみられなくなった。餌はイサザアミや動物プランクトン、ユスリカ幼虫などである。

**備考：**霞ヶ浦と北浦における内水試の調査では、1990年頃までは普通に採集されていた。環境省のレッドリストでは本種の関東型が絶滅危惧IB類に選定されている。

**主な文献：**

中村 誠 (1986) ジュズカケハゼの生態に関する研究-1 ジュズカケハゼの初期発生. 茨城内水試調査研究報告, 23: 13-17.

小沼洋司 (1983) 霞ヶ浦と北浦における湖岸帯の魚類相とハゼ類の分布域・漁獲量. 茨城内水試調査研究報告, 20: 15-23.

鈴木健二 (1980) 霞ヶ浦における漁業資源の生産構造に関する研究-Ⅱ. 茨城内水試調査研究報告, 17: 27-32.